

「美術」（世界に一匹のカタツムリ）学習指導案

1. 日時 令和7年11月19日（水） 第6時限（13:55～14:35）
2. 場所 美術室2
3. 学部・学年・組 中学部
4. 単元（題材）名 「粘土を使って世界に一匹のカタツムリをつくろう」

5. 単元（題材）目標

- ・粘土の形が、こねる・のばす・丸める・積み上げる・つけるなどの技法によって変わることに関心、技法を使って自分のつくりたい形を表すことができる。【知識及び技能】
- ・カタツムリが何を運んでいるかを想像し、形や色に注目しながら、自分の考えたことや感じたことを粘土で表すことができる。【思考・判断・表現力等】
- ・粘土の感触を楽しみながら活動に取り組み、形や色を使って自分の思いを表し、作品を見て感じたことを言葉にしたり、友だちと共有したりすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

6. 生徒観

本学年では、A・B・Cの3つの班に分かれて学習を行っている。（Aは小学部1・2段階に相当する生徒で構成、Bは小学部3段階に相当する生徒で構成、Cは中学部1・2段階に相当する生徒で構成）今回の授業対象は、小学部第3段階にあたる生徒で構成されたB班である。授業は水曜の5・6時間目、2時間続きで行われている。

B班の生徒は落ち着いて活動できる雰囲気があり、人の話をよく聞く姿勢が身についている。制作活動にも安定して取り組むことができる。全体の説明を理解して動ける生徒もいるが、個別に言葉かけが必要な場面もある。説明中に注意がそれて話を聞き逃してしまうこともあるため、確認の言葉かけや問いかけをしながら進めることが大切である。

これまでに、水性ペンで折染をした経験があり、偶然できた模様の広がりに関心をもちながら、自分なりに工夫する姿も見られた。紙を折る・切る・広げるといった作業にも慣れている。粘土を使った活動でも、練る・のばす・くっつけるといった基本的な技法を覚えて、自分の考えに合わせて形にすることが期待される。

自分でつくりたいものをもって意欲的に制作に向かう姿がある一方で、思いついたことをすぐに形にしてしまう傾向もあり、ねらいやどんな形にしたいかを事前に考えてからつくり始められるように、下絵を描いてイメージを整理する支援が必要である。模倣が得意な生徒が多く、既存の形を参考にして制作することには安定して取り組める一方で、創造的に自分のイメージを形にすることには戸惑いが見られる。そこで、粘土のもつ可塑性を活かすことで、形の変化を楽しみながら、自分なりの発想を広げて表現する力の育成を求めていきたい。

7. 教材観

「見たことのないカタツムリ」は殻ではなく、何かを運んでいるという設定にすることで、既存のイメージにとらわれず、生徒の自由な発想を促すことができる。また、正解がない題材であるため、自分なりの表現がしやすく、表現意欲を高めることにつながる。

粘土は、こねる・のばす・つけるなどの手指の操作を通じて感覚や器用さを養うとともに、つくり直しながら試行錯誤できる素材である。形の変化を楽しみながら、自分のイメージに近づけていく過程そのものが創造的な表現のきっかけとなる。こうした可塑性のある素材を扱うことで、発想を広げ、自分なりの表現を引き出すことが期待できる教材と考える。

見て描くこと、物語をつけて表現することなど、生徒一人ひとりの得意を活かすことができ、想像が苦手な生徒にも支援カードを活用して取り組みやすい柔軟な題材であり、さらに「想像する→形にする→共有する」という流れを通して、表現力・想像力・コミュニケーション力の育成につなげていく。

8. 指導観

本授業では、生徒が「自分で考えたこと」や「やりたい気持ち」を大切にしながら、作品づくりを通して自分の世界を自由に表現する楽しさを味わえるよう支援する。生徒が自分らしい発想を形にする経験を重ねることで、表現への自信と喜びを育んでいくことをめざす。

粘土という素材を通して、生徒が「こうしたい」と思ったことを自分の手で形にしていく過程を大切ににする。自分の想像が実際の形となって現れる体験は、創作の喜びを実感するきっかけとなり、表現への主体性や自信を育む。どんな形にしたいかを考え、手を動かしながら試行錯誤する中で、自分の世界を築いていく姿を支えていきたい。

活動では、生徒自身が道具の準備を行うなど、「自分でできることは自分でやる」習慣づくりにも取り組む。モニターを使って手順や見本を提示することで、活動の流れを分かりやすく示し、安心して制作に集中できる環境づくりを工夫する。また、ICTの活用は、生徒が自分の思いや興味をかたちにするための手がかりとなり、主体的な表現活動を促す有効な支援手段である。

制作中には、分からないことを先生に相談したり、できたことを報告したりする場面を設けることで、「人に伝える」「関わり合う」経験を積み重ねられるようにする。こうしたやりとりを通じて、表現への自信や人との関わりを深める経験を支えていきたい。

授業は、主担当とサブの先生が協力するティームティーチング体制で行い、生徒一人ひとりの実態に応じて言葉かけや支援を分担して行う。机間巡視から生徒の何気ない言葉や制作中の工夫に耳を傾け、表現につながるきっかけを丁寧に拾い上げることで、生徒の「やってみたい」という思いを支えていく。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① 粘土の特性（やわらかい、形の変化など）理解し、基本的な技法（こねる・のばす・つけるなど）を使って形をつくることができている。	① 「カタツムリが何を運んでいるか」という設定をもとに、下絵を通して自分なりのイメージをふくらませている。 ② 粘土にふれながら、表したいイメージを思い浮かべ、自分で形や色を選んで表している。	① 粘土の活動に進んで取り組み、感触を楽しみながらつくっている。 ② 作品を見ながら、色や形の面白さに気づき、発見を楽しむ様子が見られる。 ③ 作品を見て感じたことを言葉にし、友だちと共有しようとする姿が見られる。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全12時間、本時は第6時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1 2	・カタツムリの特徴を知り題材に興味をもつ。 ・運ばせたいものを考え構想を描く。 ・粘土での小サイズ見本づくり。	・写真、映像を観てカタツムリの形や動きを観察する。 ・「もし殻の代わりに何かを運んでいたら」の問いかけに自由に発想する。 ・支援カードやタブレット端末を使い、運ばせたいものを考え下絵を描く。友だちとアイデアを共有する。 ・下絵に基づいて、顔・体・殻のパーツを小サイズで試作する。	・視覚支援（写真や動画）を活用しイメージをもちやすくする。 ・自由な発想を尊重し正解を求めない雰囲気づくり。 ・支援カード(カタツムリのイラストと物のカード)を用意し、組み合わせることで発想のヒントにする。 ・「ミニチュア作品＝下書き」として扱い、本制作とは別物でよいことを伝える。(自由な発想を妨げないため)	・B①② ・C①②③
2	3 4	・粘土の使い方を知り制作の準備をする。	・必要な材料や道具を確認する。 ・粘土の基本的な技法（こねる、のばす、つける）を練習する。	・手指の動きに不安がある生徒は補助具を使用できるようにする。 ・安全な道具の使い方をていねいに指導する。	・A① ・B①② ・C①③

		<ul style="list-style-type: none"> ・カタツムリの本体をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カタツムリの体の形をつくるために、ペットボトルと新聞紙を使って中の芯(土台)をつくる。 ・粘土をパーツごと切り分ける。 ・芯材(ペットボトルや新聞紙)に粘土をつけて、カタツムリの顔・体・殻を形づくっていく(顔には触角や口をつけ、身体は動きのある形をつくる。殻はイメージした形をつくり、粘土でしっかりと包む。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ペットボトルや新聞紙で芯(土台)をつくり、その上に粘土を重ねる」といった制作の流れを事前に説明する ・配分に気を付ける。 ・下絵やミニチュア見本を活用して、完成形を視覚的にイメージしやすくする。「顔→体→殻」という順序を明示して、見通しをもって取り組めるようにする。下絵を参考にしたり、動きのある姿(くねらせる・傾けるなど)に気づく言葉かけをしたりする。 	
5 6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・運ぶものをつくり、全体を仕上げる① 	<ul style="list-style-type: none"> ・カタツムリに運ばせたいものを粘土で表現する。パーツに分けてつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のアイデアを引き出す言葉かけを意識する。完成を急がず満足感を大切にする。カタツムリの運ぶ物との関係性に物語性をもたせる。粘土の形は変わりやすいのでパーツごとに分けてつくったり、乾いてから、ボンドでくっつけたりするよう粘土の特徴について伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A① ・B①② ・C①③ 	
7 8	<ul style="list-style-type: none"> ・運ぶものをつくり、全体を仕上げる② 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土で表現した形に色づけや装飾などを加える。水彩絵の具の取り扱い、塗り方、注意点について説明。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色づけ前に「イメージ」を言葉や下絵で確認する。急いで塗り始めるよりも、問いかけることで完成度を上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A① ・B①② ・C①③ 	

			<ul style="list-style-type: none"> ・表現した形を合体させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土が乾いてから接着する場合は、竹串やつまようじ、ボンドなど補助素材の選択肢を紹介する。 	
9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・運ぶものをつくり、全体を仕上げる③ 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土で表現した形に色づけや装飾を加えたり細部まで仕上げたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本体と運ぶものを合体させることで、完成像が見えてくるので、自分の表現に納得感や達成感をもつところまで進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A① ・B①② ・C①③ 	
11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・コーティングする。 ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニス塗る（作品を保護し、色や形を長持ちさせる） ・振り返りシートに感想を書く。（どんなものを運んでいるかを作品について紹介したり、友だちの作品について感想を書いたりする。）振り返りシートを基に作品発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニスの塗り方(筆の使い方、塗る順番)を事前に説明。乾くまで触らないよう注意喚起。「コーティングは完成した形を長く残すため」と意味を伝える ・振り返りシートに、言葉のヒントや例文(例:「○○の形がおもしろかった」「△△の色がきれいだった」「□□に住んでいそう」など)を用意する。友だちの作品や自分の作品を見て、色・形・物語の違いを楽しみながら、感じたことを言葉にする。「どこに住んでいるか」「どんな性格か」「どんな冒険をしそうか」など、作品から想像を広げる問いかけを添えることで、子どもが自分の言葉で表現しやすくなるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・C② ・C③ 	

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・粘土を丸めたり、つけたりして、カタツムリが運ぶものを形にする。【知識及び技能】
- ・「カタツムリが何を運んでいるか」という設定をもとに、自分でイメージをふくらませながら、形で表すことができる。【思考・判断・表現力等】
- ・粘土の感触を楽しみながら、自分の思いを最後まで形にしようと意欲的に制作することができる。活動後には、作品を観て感じたことを言葉にし、友だちと共有しようとする姿が見られる。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の評価規準

- ・粘土の特性（やわらかい、形の変化など）理解し、基本的な技法（こねる・のばす・つけるなど）を使って形をつくることができている。【知識及び技能】
- ・「カタツムリが何を運んでいるか」という設定をもとに、下絵を通して自分なりのイメージをふくらませている。粘土にふれながら、表したいイメージを思い浮かべ、自分で形を選んで表している。【思考・判断・表現力等】
- ・粘土の活動に進んで取り組み、感触を楽しみながらつくっている。活動後には、自分の作品について感じたことを言葉にし、友だちと共有している。【学びに向かう力、人間性等】

(3) 本時で扱う教材・教具

粘土（軽量粘土）、粘土板（制作の場として）、芯材（ペットボトルや新聞紙に粘土をつけたもの）、ヘラ（形を整える・つけるときに使用）、下絵（アイデアを広げるきっかけとして）、タブレット端末（子どもの発想や制作の見通しを支える、カタツムリや運ぶ物の写真・動画を提示し、形や色の参考にする）、材料見本（粘土の形のつけ方や組み合わせ方を提示。技法の理解や制作の見通しをもたせる）、作品見本（参考になるカタツムリや運ぶ物の例）

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準(評価方法)
5分 導入	・ 5時間目の振り返りと工程の確認 ・ 本時の説明 「運ぶものをつくり、全体を仕上げる①」	・ モニターを使用し、本時の予定を確認し、見通しをもって授業が行えるようにする。 ・ 生徒の様子を見ながら発問し、今日取り組むことについて理解できているか確認しながら説明を進める。	
20分	・ アイデアスケッチを基に成形する。運ばせたいものを粘土で表現する。	・ 手指の操作が難しい生徒には部分的な支援を行う。 ・ 生徒の構想に沿って制作できるよ	・ A① ・ B①② ・ C①

<p>展 開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・片づけ ・作品をアイデアスケッチの横に置く。(未完の場合は袋に入れる) 粘土は袋に入れ、黒板前の机に集める。 ・片付けが終わった生徒から着席。 	<p>う個別に言葉かけを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形が崩れやすいものは、部品ごとにつくり、後から組み合わせることも必要と教える。 ・T1やT2は、道具の扱いに不安がある生徒の近くに配置する。 <ul style="list-style-type: none"> ・区切りのついた生徒から片づけを促す。(T1、T2) 作品の写真を撮る(T1) ・粘土は乾燥を防ぐため袋にしまう。 	
<p>15 分 ま と め</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返り（鑑賞） 自分の感想（気づいたこと次回取り組みたい）を発表する。 ・次時の説明 ・あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の作品をモニターに提示し、取り組んだ内容を振り返る。(T1) 振り返りシートを配布する。生徒を指名し、作品の感想を発表できる場面を設定する。(T1) ・次回の活動内容を伝え、見通しがもてるようにする。 ・号令をかけるように日直に指示を出す。(T1) ・正しい姿勢であいさつするように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・C③

(6) 教室配置等（正面を上にして、生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

